

## 平成26年度 第5回大和市子ども・子育て支援事業計画策定部会 会議録

日 時：平成26年9月9日（火）  
午後2時00分～午後3時01分  
場 所：大和市保健福祉センター  
5階501会議室  
欠席者：なし  
傍聴者：なし

### 1 開会

### 2 あいさつ

みなさまこんにちは。朝夕、日ごとに涼しくなってきました。本日も何か質問等がありましたら率直に出していただいて、有意義な会議にできればと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

### 3 議事

#### (1) 子ども・子育て支援事業計画の策定について

部会長：本日の議事(1)子ども・子育て支援事業計画の策定について、事務局より説明をお願いします。

事務局：資料1(仮称)大和市子ども・子育て支援事業計画(素案)第1章について説明。

部会長：ただいまの説明についてご意見等ありましたらお願ひいたします。

委員：ひとつ確認したい。パブリックコメントはこれから実施であるが、意見交換会など、今後さらに市民の意見を反映する場は予定しているか。

事務局：市民意見交換会を8月末に実施しまして、支援事業計画骨子の部分について、説明をいたしました。パブリックコメントについては、教育・保育の確保方策などを含めて、11月から12月にかけて実施する予定です。それでも市民の皆さんの意見をいただく場を設けております。

委員：計画の策定経緯のところに、具体的にいつ実施したかを追加した方が、よりわかりやすいのではと感じる。

部会長：その他にご意見はありますか。

委員：なし。

部会長：それでは、議事(1)の続きについて、事務局より説明をお願いします。

事務局：資料1(仮称)大和市子ども・子育て支援事業計画(素案)第2章～第3章について説明。

部会長：何かご意見等ありましたらお願ひいたします。

委員：たくさんのグラフや表が掲載されているが、そこから見えてくるものや、

これを受けてどうするのかという具体的な話が載っていない。この図表を市はどのように捉えて、どうするのかを掲載するともっと見やすいと思う。ひとつひとつの図表から考察し、目標とグラフとの対応がわかるようにするとよいのではないか。基本目標は、具体性が響いてこない。例えば、こういったことを具体的にやっていくということを示してもらえるとよい。支援事業計画案はこういうものかもしれないが、もう少し具体性があるとよい。

事務局 : 具体的な施策の展開は、第4章から掲載をしていきます。第2章では、計画はどのような経緯で作っているか、これまでにどのような問題点があったのかという部分で、本日お示ししたところは全体のイントロダクションにあたります。それぞれの施策の内容については、第4章以降で具体的に説明します。また、少子化対策については、その特効薬はありません。少子化と就労意向の高まりを受けて、子育て支援を行うことで出生数を増やしていこうとしています。前半部分での人口減や少子化に関する数字から、計画の考え方に具体的に紐付くわけではありません。計画では、少子化の問題を受けて、子どもを育てやすい社会を目指していくために保育所を整備していくという考えになります。24ページに課題を整理していますが、これらの課題は、ニーズ調査やヒアリング調査を踏まえ、浮かび上がった問題点を整理すると5項目になりました。それらの課題に対応するように、基本目標を設定すると、課題と目標が対になってきており、今回の計画素案が出来上がっています。

委員 : 少子化対策として何か他にも必要なのではないかな。

事務局 : 関係ないことかもしれませんが、男性の所得が下がってきており、奥さんが働かないと生活できないという状況になってきています。男性の給与自体を改善しなければいけないのかもしれませんが、さすがにそれは行政ではできません。政府が規制改革をしてから、男性の年収が下がり続けていて、共働きをしなければならぬ社会状況となったと、よく言われています。労働環境も厳しくなっています。女性が家にいて子どもを見たいという希望も強いのですが、それが困難な時代になってきていると言えます。

委員 : 共働きをしないと大変だとは思いますが、この計画は共働きの親だけが対象ではなく、家にいるお母さんも対象なのか。どうしても共働きの方が重くなっていると感じる。

事務局 : 共働きの家庭に焦点が当てられているのは事実ですが、具体的に計画の中では、幼稚園の話も出てきます。そのあたりで、両方を含めての計画になっています。

委員 : 少子化対策はとても難しい問題で、今の内容は一部に過ぎない。子どもを増やすということで、もしこれから結婚・出産をするとなった場合に、何がネックかということ、子どもを育てるのにいくらかかるのかという経済的

なこともある。今話し合っているのは幼稚園や保育所や学童保育についてであり、大学まで進学させたいとなった時には考えなくてはならないことは色々出てくる。子どもをたくさん育てることは経済的にも至難の面があり、全てを解決するのは難しいことと感じる。

委員 : 計画素案の流れとして、計画の細かいところに入る前に、ニーズを発掘したということがしっかり伝えられている。ニーズがピックアップされていることが分かりやすく、課題がはっきり上げられているのは良いと思う。

委員 : 家庭を取り巻く状況について、とてもよく見解が表れている。日々感じていることがこの中に取り込まれているので、これから出てきた課題に沿って、これをクリアしていけるように何とかしていかななくてはならないし、していきたいと思う。先ほどの話にもあったが、就業している方々も大変であり、共働き家庭への子育て支援は現実的には必要であるという認識を持っている。一方、働くことを選択せずに子育てをしている母親や家庭もある。社会的な状況を考えると厳しいとは思いますが、子どもと向き合って日々奮闘しているお母さんを見ているので、その部分を応援したいと思うし、支援が充実していくと良いと感じる。経済的なことが絡むので厳しい問題にはなるが、ぜひそういう家庭も、新制度ができてよかったと思ってもらえるようにしなければいけないと思う。

部会長 : その他にいかがでしょうか。

委員 : なし。

## (2) その他

部会長 : (2) その他について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 : 次回の会議日程について説明を行う。

・第6回支援事業計画策定部会は、10月14日(火)14:00から  
保健福祉センター501会議室で開催予定

部会長 : ただいまの説明について、何か質問はありますか。

委員 : なし。

部会長 : 以上を持ちまして、本日の議事はすべて終了いたしました。

## 4 閉会

職務代理よりあいさつ。

会議を何回か重ねてきて、みなさんから色々な意見が出されて、私も余計なことを言ったりする時もありますが、今日の審議でも意見が出てよかったと思います。どうもありがとうございました。

以上